

5月26日から、特別展示室でミニ企画展「自然観察会のはじまり」がオープンしました。このミニ観察会も、まぎれもなく自然観察会です。この言葉のルーツをたどる展示、ぜひご覧下さい。さて、今回は、ミニ企画展に合わせて新聞も拡大版です！今の季節の身近な自然の見どころをご紹介します。

## ◆雑草バンザイ！

この時期に目立つのは、なんとと言ってもぐんぐんと伸び始めた雑草です。雑草という言い方はちょっとかわいそう、と思われることもあります。力強くしたたかに生きている姿を見ると、まんざらでもないように思えてきます。よく地面を見回してみると、とにかくたくさんの花が咲いています。

ユウゲシヨウ



ヘビイチゴ



ハルジオン

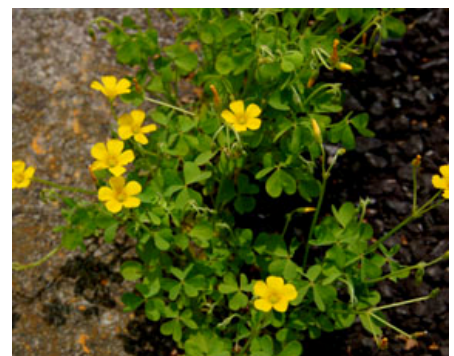


キュウリグサ

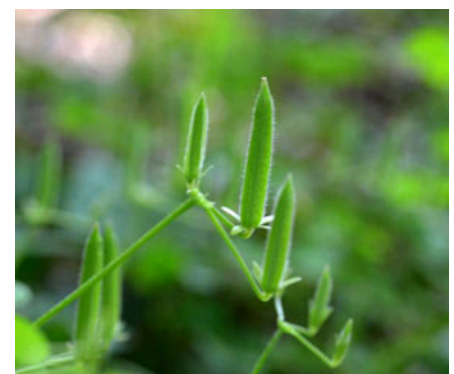
## ◆びっくり箱植物～カタバミ

カタバミは、名前を知らなくても誰もが目にしたことのある植物ではないでしょうか。特徴的なハート型の葉が3枚で一組、そして黄色いかわいらしい花。じつは、カタバミには驚きの「しかけ」がいろいろと備わっています。博物館の駐車場には、近い仲間の外来植物であるオッタチカタバミがたくさん生えていますから、これで実際にその「しかけ」を見てみましょう。

ひとつは、葉にシュウ酸という酸が含まれていること。ためしに、ちょっと古めの10円玉をカタバミの葉で磨いてみてください。どんな変化が起きるでしょうか？次に、よく実った果実を探して、指で軽くつまんでみてください。これも、試してみてもからの楽しみです。そしてもう一つ。これは夜、近所でカタバミを探してみてください。昼間のうちに目を付けておかないと、見つかりません。なぜかという、花も葉もぴたりと閉じてしまっているからです。葉を閉じることによって葉の温度が下がるのを防ぎ、光合成の効率を上げるためと言われています。



オッタチカタバミ (花)



オッタチカタバミ (果実)

## ◆クワにまつわる虫～クワコ

クワの木と言えば、カイコです。でも、クワの葉を食べる昆虫はカイコだけではありません。カイコにとっても近いなかまの野生の蛾と言われる、クワコもそのひとつ。今、クワの木をよーく探すと、小さな幼虫が見られます。クワコは、終齢幼虫になるまでは、白と黒のまだらもよう。これ、何かに見えませんか？そう、鳥のフンに似せた模様です。チョウや蛾のなかまには、こうして小さいうちは鳥のフンに似たもようの種が少なくありません。アゲハチョウなどもその一つです。さなぎになる直前の終齢になると、今度はクワの枝に化けます。この終齢幼虫、ちょっとつくとさらに面白い行動を見せてくれるのですが、それは次回のお楽しみといたしましょう。



クワコ (3 齢幼虫)

## ◆クワにまつわる虫～こちらは害虫、クワキジラミ

クワの葉が開いてしばらくすると、葉がくしゃっと縮こまり、その中からなにやら白い糸のようなものがひらひらと垂れ下がっているのを見ることがあります。いったいこれはなんでしょう？じつは、クワキジラミというキジラミのなかまの幼虫なのです。キジラミとはカメムシ目に属する昆虫で、成虫の姿は同じカメムシ目のセミとちょっと似ています。木の汁を吸うところもセミと同じですが、大きな声で鳴いたりはしません。とても小さくて、葉の裏の葉脈に沿ってとまっていることが多い目立たない虫です。しかし、クワの葉はカイコを育てるための大切な作物です。クワキジラミがついた葉は水分が吸い取られてしまいますし、幼虫じたい、カイコが食べるのにとっても邪魔です。そのため、クワキジラミは昔からクワの木の害虫として養蚕農家から嫌われていました。さて、この白い糸ですが、幼虫のおしりから出るロウが固まった物だそうです。いったい何のためにこんなものをくっつけているのでしょうか？



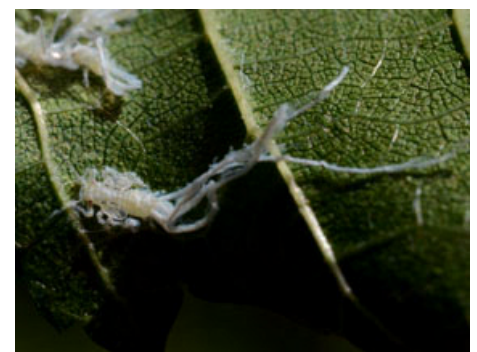
クワコ (終齢幼虫)



クワキジラミの幼虫がついたクワ

## ◆土の上のてんこもり～モグラ塚

林の中の地面に、なんだかぼこぼこ小山ができています。これ、なんでしょう？土がまだ湿っているので、明らかについ最近できたものです。森の妖精が夜中におままごと？いえいえ、これはアズマモグラのモグラ塚です。モグラが地面にトンネルを掘り進める時にかき出した土が、ところどころで山になっているのです。10メートル四方くらいの中に、5つ以上ありました。地下ではきつとつながっているのでしょうか。アズマモグラは体長（頭胴長）15センチほどの小さな哺乳類です。それにしても、すごい仕事量ですね。



クワキジラミ (幼虫)



アズマモグラのモグラ塚

次回のお知らせ

ミニ観察会：6月9日（土）11時から約30分  
新聞 No. 15 も発行します。